

くにさきの鬼

ある冬の日、
たろうは、おばあさんのすむ
くにさきへ やってきた。

くにさきの山には
むかしも いまも 鬼がおる。
年にいちど ふもとの里へと
やって来ちくるんよ。





「たろうは、オニサマに会うたこつ あるかなあ？」

「え？ 鬼？」

「山の岩屋に住んじよる オニサマじゃ。」

「鬼なんて おらんのん ちゃうん？」



「くにさきのオニサマはなあ、
たったのひとばんで 99だんの石を つみあげちみたり、
大岩を せなかで ばしいと わったりでくるんち」

「ばあちゃん、鬼って ほんまにおるん？」

「明日はお祭りじゃけん、
たろうも オニサマに 会えるじゃろう」



夜も とつぷりふけたころ、
ふと たろうが 目をさますと、
目の前に 見知らぬ少年がいた。

「え、だれや？」

「ぼくは 太郎天だ」
「きみを 鬼のところに つれて行ってあげるよ」

そういうと太郎天は、
くるんとまわり、ぶおんと 風をまきおこした。





目を開けると、たろうは 夜空をとんでいた。

見下ろすと、おぼうさまたちが
しんけんな顔つきで石橋をかけぬけている。



「うわっ、橋がくずれそうや！」

「これは、ぼうさまの修行なんだ」

太郎天は そういうやいなや、
またもや ぶおんと 風をまきおこした。



たろうは、
大きな岩屋の前に立っていた。

「おぼうさんが なんか ゆうてる」
「不動明王に、
じゅもんを とнаえているんだよ」

ナマ
サマシ
バサラナン
センダ
マカロシヤナ
ソフタヤ
ウンタラタ
カンマン……

すると、おぼうさまの体が
見る見るうちに大きくなって…





おに
「鬼や！」

たろうは、あまりのおそろしさに
ぎゅっと 目をつむった。

全編は
日本遺産くにさきの
ホームページから
(<https://www.onie.jp>)



図鑑も
あるのだ

